

令和6年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部
(県知事賞 優秀賞)

「土砂災害から身を守るために」

鹿児島県 喜界町立喜界中学校 1年 辻崎 瑛理

土砂災害は、日本の自然災害の中でも非常に身近であり、特に梅雨や台風のシーズンには頻発します。家屋の破壊や人命の損失をもたらすことがあり、地域社会にとって大きな脅威となっています。そこで私は土砂災害の原因、被害の状況、そして予防策について考えてみました。

まず、土砂災害の主な原因は、地形的な特徴と気象条件の組み合わせです。日本は国土の約7割が山地であり、斜面が多く存在します。これらの斜面は、豪雨や長期間にわたる降雨により、地表の土が水を含んで重量が増加し、不安定な状態におちいります。その結果、土砂が崩れ落ちる土砂崩れや、土石流などの現象が発生します。さらに、地震も土砂災害の一因となります。地震によって斜面が揺れ、地盤の変形や亀裂が、後の降雨によって災害をおこすリスクを高める場合もあります。特に、日本は地震大国であり、こうしたリスクが常に存在していることを忘れてはなりません。さらに、気候変動も土砂災害の頻度と規模に影響を与えています。近年、地球温暖化により異常気象が増加しており、豪雨の頻度や強度が増しています。これにより、本来は安全とされていた地域でも土砂災害のリスクが高まっているのです。

次に、土砂災害の影響についてです。土砂災害が発生すると、莫大な被害をもたらされます。まず、家屋や道路が土砂に埋め尽くされ、人命が奪われる可能性があります。特に、深夜に発生した場合、住民が避難する時間がなく、命を落としてしまうことも少なくありません。実際に、毎年日本では土砂災害によって多くの家や道路が被害を受け、多くの人が怪我をしたり亡くなったりしています。また、土砂災害が発生すると、被害を受けた地域では長期間にわたって生活が困難になります。例えば、道路が土砂で塞がれてしまうと、物資の運搬ができなくなり、食べ物や水が不足することもあります。また、電気や水道が止まってしまうこともあり、日常生活に大きな支障が出ます。このような状況が続くと、被災した人たちが元の生活に戻るまで非常に多くの時間がかかります。

最後に、土砂災害の予防策についてです。土砂災害を防ぐためには、事前にどのような対策を取るべきか考えることが重要です。まず、危険な場所に住んでいる場合、早めに避難することが大切です。気象庁や市町村が発表する警報や避難指示に従い、安全な場所に移動するようにしましょう。また、自分の住んでいる地域が土砂災害のリスクが高いかどうかを日頃から確認しておくことも重要です。ハザードマップを見たり、学校や自治体が行う防災訓練に参加したりすることで、いざというときにどう行動すればよいか学ぶことができます。さらに、地域全体での取り組みも必要です。例えば、山の斜面に木を植えることで、土砂が崩れにくくすることができます。木の根が土をしっかりと支えるため、雨が降っても土砂が流れにくくなります。また、排水設備を整えることも大切です。雨水が斜面にたまらないように、しっかりと排水できるようにすることで、土砂崩れのリスクを減らすことができます。土砂災害が発生した後の対応も重要です。まず、被災した人々が安全な場所に避難し、必要な支援が届くようにすることが優先されます。救助隊やボランティアの人たちが協力して、道路の復旧や物資の配布を行います。さらに、被災した地域が再び同じような災害に見舞われないよう、長期的な対策を講じることも求められます。例えば、斜面の補強工事や、災害に強いインフラの整備などが行われます。

このように、土砂災害は日本にとって非常に身近で怖い自然災害です。しかし、事前の対策をしっかりと行い、いざというときに冷静に対応することで、被害を最小限に抑えることができます。私たち一人ひとりが土砂災害について正しい知識を持ち、自分の身を守るための行動を取ることが大切です。地域全体で協力し合い、災害に強い社会を作っていくことが、未来の安全を守るための大きな一歩となるでしょう。